令和6年度「つどい、つながる文化の会議」の事業評価について

市民文化部文化振興課

1 事業評価に向けた専門部会の新設

(1) 事業評価の方向性

文化施策推進委員会の下に専門部会を新設し、「つどい、つながる文化の会議」の事業評価を行います。評価にあたっては、専門部会委員として、ご就任いただきましたお二人が実際に本事業に参加しながら、評価を行う「参加型評価」といたします。

(2) 参加型評価

活動を提供する側だけでなく、活動を受ける側の立場に重点を置き、現場の状況を把握することで成果物にたどり着くプロセスも重視することができます。

2 つどい、つながる文化の会議

(1) 茨木市文化振興ビジョン（第2期）における位置づけ

茨木市文化振興ビジョン（第2期）を推進するにあたり、多様な主体がつどい、分野を超えてつながる、共創する会議（つどい、つながる文化の会議）としています。この会議を通じて、多様な主体や分野をつなぐ人材が育ち、活躍することで、様々な場所・活動・主体が有機的につながり、文化的コモンズの形成の促進が期待されます。

(2) 文化的コモンズ

地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体のことです。（平成26年3月財団法人地域創造提言より）

近年、社会の複雑化に伴い、文化活動そのものだけでなく、教育と文化、福祉と文化、観光と文化、産業と文化等との広範な連携により、文化的コモンズが形成され、それが地方の活力を生み出しています。

また、文化的コモンズを形成するには、それを担う人材が必要であり、行政や文化拠点は、地域における様々な担い手と連携しながら、「コーディネーター」を育成・確保する必要があります。

(3) 実施内容

令和6年10月、公募型プロポーザル方式による事業者選定の結果、サントリーパブリシティサービス株式会社と本事業の企画運営等業務委託契約を締結しました。令和6年11月には、公募による参加者の募集を行い、大学生から幅広い年代の総勢23名の方が集まりました。参加者の中には、音楽や美術作品の鑑賞を趣味にされている方や、実際におにクルのオープンスペースで演奏されている方や本市現代美術展に出品されている方もいます。

令和6年度は、「アートカフェをつくろう！」をテーマに、参加者同士で話し合いながらコンセプトブック（絵本）を制作し、コンセプトブックを用いて、令和7年3月8日の成果発表イベントを企画、当日の運営を行います。

本事業は、成果発表（イベント）に向けたプロセスによる横の関わりと、成果発表当日の外への広がりというコーディネーターの基礎的活動を経験してもらうことを狙いとしています。文化芸術を通じた人や団体との交流を繋ぐ場を活用した市内活動団体との関係構築を推進することで、文化的コモンズの形成に必要とされるコーディネーターの育成や活躍できる場の充実をめざします。

<令和6年度実施状況>

R6. 12月1日 文化の会議①：文化振興ビジョン（第2期）の説明、
藤野一夫教授（芸術文化観光専門職大学副学長）による講義

12月14日 // ②：SUITA×ART（吹田市）の視察

R7. 1月25日 // ③：イベントテーマの決定、コンセプトブックの案出し等

※実施内容の詳細は別紙参照

4 評価の目的

- ・来年度の事業へのフィードバック
- ・本事業の周知に活用
- ・予算要求時の資料

5 今後のスケジュール

R7. 2月15日 文化の会議④：コンセプトブック作成、イベント企画調整等
※文化振興施策推進委員会専門部会を兼ねる

3月8日 文化の会議⑤：成果発表イベント@おにクル1階オープンギャラリー
※文化振興施策推進委員会専門部会を兼ねる

3月中旬 令和6年度 文化の会議に関する評価のとりまとめ（専門部会委員）

3月27日 令和6年度 第2回文化振興施策推進委員会
文化の会議に関する評価の報告、答申